

平成 27 年度
日本財団「海でつながるプロジェクト」

つながる海の日プロジェクト 2015in 浜名湖

【 報告書 】

平成 27 年 9 月

つながる海の日プロジェクト in 浜名湖実行委員会

1. 事業の実績

■事業の名称

日本財団「海でつながるプロジェクト」

つながる海の日プロジェクト 2015in 浜名湖

■開催主旨

(1) 広く一般に対し、海の大切さや重要性を効果的に認識してもらう

目標

浜名湖地域特有の海、湖、山の関連性を伝えるプログラム、海に係る活動をしている人たちとの出会いとふれあいを通して、海の重要性を伝える。

(2) 日本の祝日「海の日」の周知、啓発に繋げる

目標

安全が確保された安全なレース水面を活用し、普段できない体験や出会いを通して、特別な日である事の認識を高める。

(3) 次世代を担う子供たちの海に対する好奇心を喚起する

目標

当事業を通して、子どもたちが実際に見る、聞く、食べる、体験する場面を多世代でつくりあげ、海への関心を高める。

(4) 事業を通じて、今までにない視点で海に触れたり感じたりする経験を提供する

目標

“海＝楽しい”というイメージや体験だけでなく、津波や水害、防災の視点での海のプログラムも行い、地震防災対策強化地域だからこそ「自分で自分の命を守る」というメッセージも強く伝える。

■開催日時

平成 27 年 8 月 29 日(土) & 30 日(日) 10:00～16:00

※29 日(土)はプラスイベント実施のため 20:00 頃まで

■会場

ボートレース浜名湖

静岡県湖西市新居町中之郷 3727-7

■主催

つながる海の日プロジェクト in 浜名湖実行委員会

【実行委員会】

	氏名	所属団体 役職
実行委員長	神谷 尚世	NPO 法人コラボりん湖西 代表理事
副委員長	岡 浩	NPO 法人 SEA NET 浜松 理事長
〃	兵藤 静	浜名湖競艇企業団 参事兼宣伝課長
実行委員	三宅 淳子	NPO 法人奥浜名湖観光まちづくりねっと 事務局長
〃	下澤 獄	静岡文化芸術大学 教授
〃	柴田 和利	湖西市商工会 事務局長
〃	二橋 和久	〃 事務局長代理兼地域活性化センター所長
〃	内山 安弘	新居町商工会 事務局長
〃	後藤 吉延	〃 経営指導員
〃	吉田 新吾	浜名商工会 事務局長
〃	橋本 勝弘	静岡県西部地域政策局 局長

※オブザーバー: 稲葉大輔(館山寺温泉観光協会副会長、浜松市市議会議員)

【事務局】

	氏名	所属団体 役職
事務局長 (統括責任者)	高田 真	浜名湖競艇企業団 宣伝課 課長補佐
	白井 幸倫	浜名湖競艇企業団 宣伝課 係長
	新村 智子	NPO 法人コラボりん湖西 事務局長

■後援

静岡県／浜松市／湖西市／静岡新聞社・静岡放送／テレビ静岡／静岡朝日テレビ／静岡第一テレビ／
中日新聞東海本社

■来場者総数 実績

- ①来場者数 10,454 名
(29日 5,325名・30日 5,129名)
- ②商工会出店ブース参加者数 38ブース
- ③市民活動団体ブース参加者数 37ブース
- ④関係者・スタッフ・ボランティア数 52名

総勢 10,506名

■メディア掲載 実績

【新聞掲載】

中日新聞 3件

- ・「海の大切さや魅力学ぶ 湖西で29、30日 ボート市場体験など」2015年8月15日
- ・「今日から体験イベント 浜名湖ボート 持ち投げやダイバー実演も」2015年8月29日
- ・「浜名湖ボートレース場『海の日』 浮く布団 安全救助 プロダイバー実演」2015年8月30日

静岡新聞 1件

- ・「クイズラリーなど多彩にイベント ボートレース浜名湖」2015年8月30日

東愛知新聞 1件

- ・「海の大切さ次世代へつなぐ 日本財団事業の一環 浜名湖ボートでイベント」2015年8月30日

静岡新聞びぶれ 1件

- ・特集「楽しく学ぼう！遠州灘と浜名湖」2015年8月27日号

【テレビ放映】

テレビ静岡 「FNN みんなのニュース」(8/29 土 17:30~18:00)

静岡朝日テレビ 「ANNスーパーJチャンネル(8/29 土 17:55~)」

【雑誌掲載】

浜松百選 1件

- ・「学び楽しみ味わいつながる〈つながる海の日プロジェクト〉」2015年8月号

【その他】

広報こさい

- ・「水の世界で遊ぼう・学ぼう！」平成27年10月号

2. 事業の概要

ボートレース浜名湖を会場に、「まなび」「たのしみ」「あじわい」「つながつ」テーマのブースを創出。海の日
に、「人と人」「人と活動」つなげることで、水辺環境の魅力を発信し、次世代を担う子どもたちの海に対する
好奇心を喚起し、様々な水に触れる機会を創造した。

【まなび】

・描いた絵が動きだす！ お絵かきアクアリウム



・海のワークショップ



・海のクイズ・スタンプラリー



・浜名湖の魅力ミュージアム



・水難事故の救援や被災地支援を行うプロダイバーによる水上救援の実演

〔協力: 認定 NPO 法人アンダーウオータースキルアップアカデミー(静岡県伊東市)〕



・世界初！ 水に浮くお布団体験！！

〔協力: 株式会社 NA テック(滋賀県東近江市)〕



・スポーツ選手トークセッション



・トークセッション「被災地からの学び～水上、水中での活動から～」



・きれいな海にしよう！ワークショップ



【たのしみ】

・自遊画家ヤマモリコウジ「ダイダラボッチの手形ワークショップ」



・ダイダラボッチのおはなし読みかせ



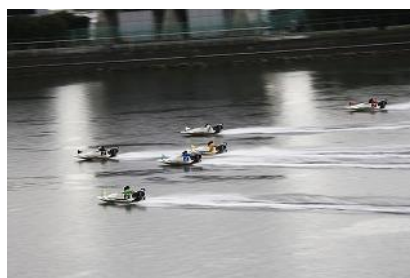
・ちびっこボート



・モーターボート試乗体験！



・ボートレース・デモンストレーション



・新居吹奏楽団・演奏



・県立湖西高等学校吹奏楽部・演奏



・琴詩会



・湖西太鼓ゆめ昂・大太鼓実演



・銭だいこ実演



・被災地と静岡を唄でつなぐ橋本薫ライブ



・「つながる海の日プロジェクト in 浜名湖」テーマソング 作者・大島圭太ライブ



◎キャラクターショー

- ・手裏剣ニンニンジャーショー
- ・Go!プリンセスプリユアショー

集客力に優れる戦隊ものなどのキャラクターショーを開催。海にまつわるオリジナルストーリーを絡めながら展開。

◎29日+PLUS

- ・つながる海の日 CAPin 浜名湖ミニサッカー大会

・ノンアルコール・ビアガーデン



・遠州名物！餅投げ



・こども手筒花火



・遠州新居手筒花火



◎30日+PLUS

・魔除け、厄除け、商売繁盛！ 前日使用の「遠州新居手筒花火」販売



【あじわい】

商工会出店ブース

浜名商工会、湖西市商工会、新居町商工会の協力を得て「浜名湖のめぐみ物産展」38ブースを設置。

■浜名商工会

01(株)ドリーム



02 金寅



03 大和屋製菓舗



04 かねこ屋



05(有)丸中中村商店



06 貴寿司



07KK 食品合同会社



08 うまいもん 空海



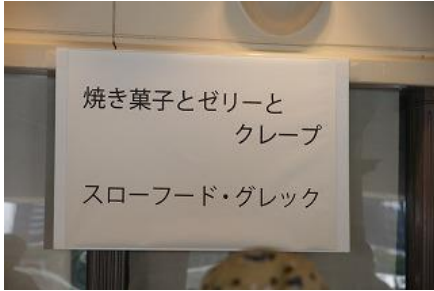
09 天禄商会



10 菓子工房クレオ新坂屋



11 スローフード・グレック



12 ピッツァなお



13 小さなお菓子屋さん キュイドール



■湖西市商工会

14 三ツ輪屋



15 そらうみ



16 前田商店



17(有) 浜名湖ファーム



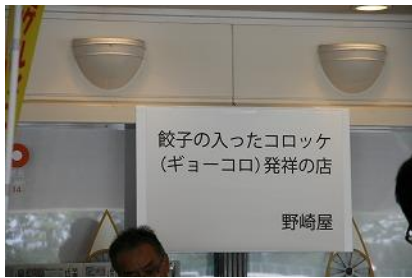
18 豊田屋精肉店



19 和菓子処ひので軒



20 野崎屋



21 しゅうまい屋四十六番



22 パピヨン湖西店



23 MONSTER'S MAN



■新居町商工会

24 なるちゃん



25(有)やまへい



26 割烹紅葉



27 杉浦タイヤ商会



28(有)なべや



29 うまいら(株)



30 近江屋製菓(有)



31 ど oco



32(有)茶の里 小倉製茶



33 新居町商工会 女性部



34 料敬



35 うなぎの仲右エ門

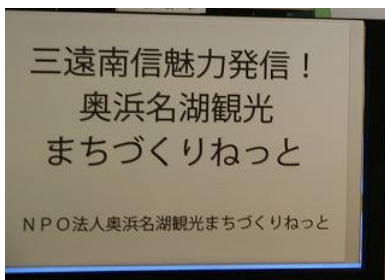


三遠南信

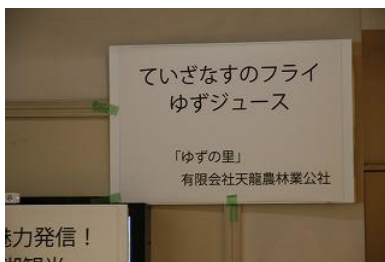
36 南信州ここに



37 奥浜名湖観光 まちづくりねっと



38(有)天龍農林業公社



【つながる】

静岡県内市民活動団体協働ブース

日頃、それぞれのフィールドで活躍している静岡県内の様々な市民活動が、一堂に集結し、活動の PR やアトラクションを実施。参加 37 団体が、地域と団体とのつながりを深めた。

01NPO 法人コラボりん湖西（湖西市）



02 浜名湖魅力発信隊（浜名湖周辺地域）



03 一般社団法人エヘガザル富士山牧場（富士宮市）



04 特定非営利活動法人 日本沼津災害救援ボランティアの会（沼津市）



05 特定非営利活動法人 アートの里伊豆高原絵本の家 (伊東市)



【伊東もんじゃ組】

06 特定非営利活動法人 地域・就労サポートセンター すう (伊東市)

07 特定非営利活動法人 伊東里山クラブ (伊東市)



08 特定非営利活動法人 市民活動広場ふらっと御殿場 (御殿場市)



09 特定非営利活動法人 里山会公文名ファイブ (裾野市)



10 はぴま実行委員会 (静岡市)

11 特定非営利活動法人 よしよし (静岡市)



12NPO 法人 Sea Net (湖西市)

13NPO リアル野球版協会 (島田市)



14 ボディジュエリーサロン jewel (湖西市)



15 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 (静岡市)



【託児ルーム】

16 ぴっぴシッター（浜松市）

17 特定非営利活動法人 ころころねっと浜松（浜松市）



18 みらい TALK（浜松市）



19 一般社団法人 ブリッジハートセンター東海（浜松市）



20 マザーリングラボ（浜松市）



21NPO 法人静岡マリンスポーツ振興協会（沼津市）

22 足育促進プロジェクト inTOKAI (浜松市)



23NPO 法人レクリエーションリーダーズクラブ湖っ子の会 (湖西市)



24 認定特定非営利活動法人アンダーウォータースキルアップアカデミー (伊東市)



25 静岡県地震防災センター・西部危機管理局 (静岡市)



26 レク楽の会 (湖西市)



27 静岡県社会福祉協議会（静岡市）



28 掛川市社会福祉協議会掛川児童交流館（掛川市）



29 おはなし工房 やまねこ（湖西市）



30 NPO 法人りゅう（湖西市）



31 特定非営利活動法人 浜松スポーツプロジェクト（浜松市）



32Forest ちゃんぷる (浜松市)



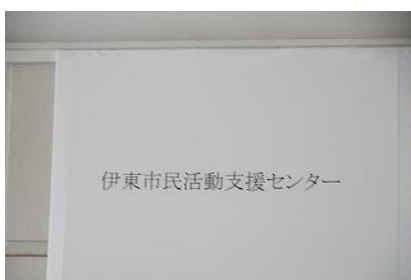
33 ククネイル (湖西市)



34 静岡県防災用品普及促進協議会 (県域)



35 伊東市民活動支援センター (伊東市)



36NPO 法人伊豆学研究会 (伊豆の国市)



37NA テック (滋賀県)



3. 事業の総括

■事業を取り巻く背景

①海とつながる浜名湖の環境的課題

海とつながる浜名湖では、水の汚れ、護岸の緑や生態系が失われていること、水辺への眺望や親水の場が不足していることなどの課題があり、景観のみならず貴重な自然環境の保全の観点からも、これらを改善していく取組みが求められている。

②住民参加のまちづくり

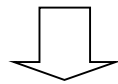
浜名湖周辺は、自然資源、物産、観光施設等、観光資源に恵まれた地域である。館山寺温泉等を起点に、海・山が共存する浜名湖を体験するプログラムを盛り込みながら、浜松、湖西両市の観光活性化を図ることが求められている。そのためには、地域にある魅力を地域住民が認識し、住民もつながりを持って、主体となってまちづくりに関わり、情報等も共有・発信していくことが求められている。

③防災的課題に対して

東日本大震災以降、南海トラフ巨大地震への防災意識が高まっているこの遠州灘地域では、行政の行う、避難棟や防波堤の設置などの防災対策事業だけでなく、子どもも大人も住民全員が自らの命を守るために何をしなければならないか、という意識を持つことが求められている。しかし、避難訓練や備蓄品を揃えることはできても、「減災」という活動は中々取り組むことが難しい。「減災」に対する意識向上も図るためには、映像や紙面だけでなく、実際の体験や体験者の話を聞く事が効果的であり、そうした活動を行う場が必要となっている。

④地域資源としてのポートレース場の活用

浜名湖には、県内で結一のポートレース場があるが、社会福祉に大きく貢献している公営競技であるにも関わらず、ギャンブルという側面が強いため、『市民に開かれた場であること』や『社会貢献しているイメージ』がないのが実情である。ポートレースファン以外の多くの人に「交流」や「活動」の場として活用もらうことで、公共施設としての存在意義や価値を高め、ひいては周辺地域の財政や日本財団を通しての海事振興、社会福祉やスポーツ振興にも役立てつことが今後の課題としてあった。



浜名湖と海でつながる周辺住民が、県域を巻き込み、

協力者となり、参加者となり、連携しながら事業を推進した

今回の事業では、県や市など行政、地元企業や商工会、観光協会、地元大学の“産学官”だけでなく、様々な得意分野を持つ県内の市民活動団体がコラボして、協働で「つながる海の日プロジェクト in 浜名湖」を実施した。その事務局は、湖西市に拠点を置き、市民活動の中間支援組織として、県西部だけでなく県全域まで活動を広げる NPO 法人コラボりん湖西が担った。

■事業を実施して

①ポートレース場の新たな可能性を実感

この事業を通して、今まで連携した事のない市民活動団体や企業、地域行政と一緒に運営をしていくことで、ポートレース場の“交流の場”や“ショッピングモール”としての価値を示すことができた。雨天でも開催できることが、大きな魅力である。

これまで情報が届かなかった年齢層や地域へ地方財政や日本財団の活動を通して社会福祉に貢献している事について広報し、新たな協力者を得るきっかけとなった。



②市民活動団体として活動の広がりを実感

各団体がこれまでの地域や世代のフィールドを超えて一堂に会することで、新たな連携・協力が生まれ、今後の事業展開に新たな広がりや深まりを実感することができた。

静岡県東部から西部(浜名湖)へ。山から海へなど、地元以外での広報や活動場所を求めている市民活動団体がたくさんある。そのような市民活動団体の活動を紹介したり、活動場所を提供したりすることにより、それぞれの団体への理解が深まり、協力者の増加に繋がった。



③企業、商工業者としての社会貢献

近年、社会貢献活動に積極的に取り組んでいる企業や商工業者等も、従来と同じような活動ではなく、新たな活動を求めていた。今回の事業を通じ、これまでにない社会貢献の場となり、新たなつながりを生むこともできた。



④地域行政としての関わり

静岡県は、浜名湖周辺の連携・協力を強化する事業展開を考えている。しかし、各行政区外の連携は難しいのが実情だった。実行委員、協力者として静岡県職員が関わっていくことで、広報や運営を通しての協力ができ、地域が一体となって目標へ取り組む機会となった。

また、各地域の自治会に属する住民、学校に属する子どもたちに協働を呼びかけ、参加させる機会を提供できた。

⑤大学の地域連携実践演習

大学が今年度から行なう地域連携実践演習と絡ませることで、学生が参加しやすくなるだけでなく、より高度な視点や実践のできる次世代の育成ができた。

■今後の展望

この「つながる海の日プロジェクト in 浜名湖」は、複数年度継続して実施してこそ、「海の日」の意義の認識を深め、多くの方々が海への好奇心を持ち、自らが行動を起こす側となり、また新たな人たちの参画へつなげていく環境ができると思われる。

今年度(初年度・平成 27 年度)

・今年度は、ボートレース場で行う「海の日」サポート事業に参加し、来場させる動機を強化し、「海」というキーワードでつながる団体や人の協力を集め、事業の主旨を携わった協力者全員に共通認識を与えた。

⇒来場者はイベントとして捉えるかもしれないが、協力者は共通意識を持つため、少なくとも関わる協力者には「海の日」を強く認識する

・当事業の連携を通して、団体同士の連携、ボートレース場との連携が実現した。

⇒当事業の経験で得た体験や連携先との出会いにより、各団体でも海を繋げたプログラムを取り入れ、広めていく。

来年度(平成 28 年度)

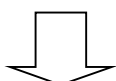
・初年度の実績を踏まえ、関連する協力団体や企業の拡大。行政区に捉われない行政等の意欲的な参画を促す。

・集客だけでなく、本質を捉えたプログラムの更なる充実による、初年度に得た「海」に対する知識を積み重ねる。

・地域の子どもたちも来場者としてだけでなく、参画の機会をつくり、同世代の子供たち同士が海に対する想いを継承していく。

再来年度(最終年度・平成 29 年度)

・3年間の集大成として、ボートレース浜名湖の「海の日」サポートプログラム事業に対して、県外からの協力者や参加者が積極的に集まる活動を実施する。海と湖と山がある、浜名湖しかできない「海の日」事業を完成させる。



多くの人が多様な立場で関われ、多様な海の姿を認識する、

「つながる海の日プロジェクト in 浜名湖」へ

